



佐山のおかあさん

佐山

手打ちそばと旬菜の店 ひろ
伊藤 広子さん

笑顔のための優しい料理

「皆さんの笑顔が好き。笑顔を思い浮かべて作っている」と話すのは亭主の伊藤広子さん。佐山小学校と佐山地域交流センターの裏にあり家庭的な雰囲気の店内。笑顔で地域住民や外回りのサラリーマンを迎え入れ、野菜たっぷりの優しい味わいの手料理で癒やしている。

地元や自家栽培の米と旬のお豆のごはんに加え、開店直前に打った二八そばに自家栽培や地元野菜を使った惣菜が付いた手打ちそば定食が看板メニュー。40年以上にわたり作り続けている麦味噌を使ったみそ汁も絶品だ。



手打ちそば定食

思い立ってそば屋に

佐山出身で60歳を迎えた2014年に「これからの人生はそば屋で生きよう」と思い立って、所有していた土地に新築オープン。ケガで入院したとき夫が差し入れて持ってきた本に感化され、開業したのだから驚きだ。

飲食業を営んでいたわけではないが家庭で振る舞っていた料理には自信があった。当初はこんな何もない所で食堂を開いても誰も来ないと言われたが、友人知人の口コミで知られ近隣地域からの来客でにぎわうようになった。

飲食店を超えた地域の居場所を目指して

近年は一般社団法人「Sぷらす」を立ち上げた三男の雅浩さんと二人三脚でこども食堂と認知症カフェを開き、地域の交流の場を目指して奮闘している。

こども食堂は月1回開き、約90人が利用。地域の人々の助けを受けて手作り料理でもてなし4年で40回以上開催した。利用する中学生があいさつを返すようになり、保護者とも育児について話す機会も生まれ、地域の間として定着しつつあると手ごたえを感じている。



認知症カフェ

認知症カフェ「笑顔の喫茶」は月2回開催している。さまざまな人々が交流し、健康体操やゲームなどのレクリエーションを楽しむ。利用者からは「ここに来るのが楽しい」との声が聞かれる。伊藤さんは「当初はこんなことができるとは思っていなかったが、地域の支えで実現できた」と笑顔を見せる。

子どもたちの成長を願って

多世代が協力しているのが佐山の魅力と話し「子どもたちが生まれた場所に愛おしさを感じてほしい」と話す。また、「子どもたちにとっては、幼少期に愛され、大切にされた経験が大事だ」と強調する。子どもたちが店員となりメニュー作りから広報、接客まで行うジュニア食堂の開催もそんな思いの表れだ。

今後もこの食堂を基盤に地域のためにできる活動を続けていくことが目標だ。「一生懸命やる姿を通じて子どもたちが成長していく中で何か温かなものを感じてほしい」と願う。

「採算が合わないことばかりして叱られる」と笑うが「皆さんの笑顔のためにやっている」と力を込める。4人の子どもを育て上げた経験を持ち、親身になって子育て世代に向き合っている佐山のおかあさんの笑顔は今日も輝いている。



地域の子どもたちとの交流



料理を振る舞う伊藤さん



ひろ外観

所 山口市佐山1338-2
☎ 083-989-6007